

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 清原東 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	63人	算数	63人	理科	63人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	68人	算数	69人	理科	69人
------	----	-----	----	-----	----	-----

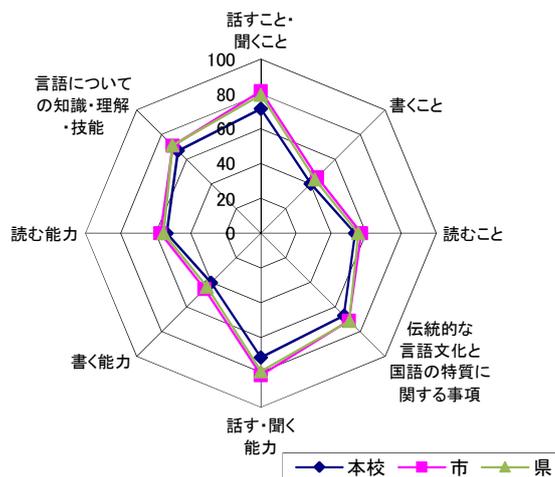
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原東小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	71.4	81.6	79.4
	書くこと	40.2	45.4	43.6
	読むこと	53.7	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.0	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	71.4	81.6	79.4
	書く能力	40.2	45.4	43.6
	読む能力	53.7	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	67.0	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

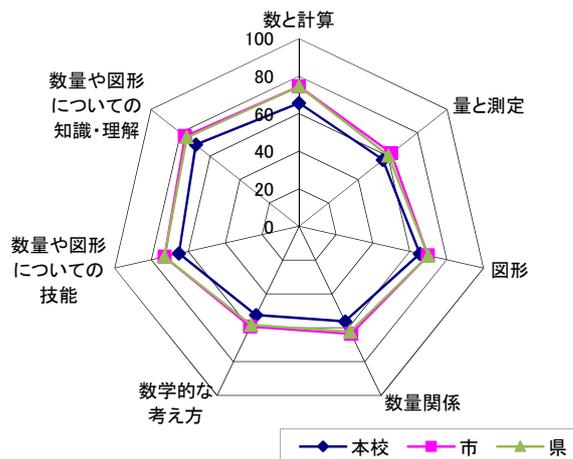
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の正答率に比べて低い。特に、「話す」に関しては、無回答率も高い。</p> <p>○話し合いにおいて、司会者の役割を理解し進行することは県の平均正答率を上回っている。</p> <p>●話し合いにおいて司会者の役割を理解して発言を整理したり、理由を挙げながら筋道を立てて話すことについて課題が見られる。</p>	<p>・今後も授業の中で小集団による話し合い活動を取り入れ、だれもが司会者の役割を担ったり、理由を挙げながら自分の考えを述べたりできるように指導する。</p> <p>・「聞く」ことを大切に指導を充実させる。授業や朝の会での「スピーチ」などで、話の中心に気を付けて最後まで聞くことができるようにする。</p> <p>・児童の多様な考えを引き出せるように、話し合いのねらいを明確に示したり、発問を工夫したりする。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の正答率に比べて低い。</p> <p>●文章構成を意識しながら報告レポートを書いたり、メモや友達の意見をもとに内容を工夫したり、メモをもとにして内容を書くことについて課題が見られる。</p>	<p>・授業の終末の学習のまとめと振り返りを大切に、それらを自分の言葉で書く習慣を身に付けさせるようにする。</p> <p>・短作文や日記指導等を通して、自分の考えを書く機会を増やす。指導の際には、文例や文章構成についての例を示すなどして、児童の書くことへの抵抗感を少なくするように努める。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の正答率に比べて低い。</p> <p>○説明文について、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、整理することがよくできている。</p> <p>●物語文について、叙述をもとに登場人物の気持ちを想像して読むことに課題が見られる。</p>	<p>・今後も、朝の読書、家庭での読書や音読を推進し、文章に親むようさせる。また、音読カードを活用し、音読の習慣化を図る。</p> <p>・物語文において、登場人物の気持ちを想像しながら読み、物語を読んで感じたことを発表し合ったりして、読むことの楽しさを味わわせるようにする。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、市の正答率と比べて低い。</p> <p>○国語辞典の使い方についてはよく理解している。普段から国語辞典を活用している成果であると考えられる。</p> <p>●漢字を書くことと読むことに課題が見られる。</p> <p>●簡単な単語をローマ字で書くことや指示語の役割についての理解が不十分である。</p>	<p>・漢字を練習する際に、声に出して繰り返し読んだり、振り仮名を振らせたりすることを徹底して指導する。漢字の習得については、朝の学習の時間を充実させるとともに、家庭学習により定着させていく。</p> <p>・文章を書く際には、習った漢字を使うように徹底して指導する。</p> <p>・定期的にローマ字練習プリントを行い、定着を図る。</p>

宇都宮市立清原東小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.7	74.5	74.6
	量と測定	56.7	62.4	60.4
	図形	65.5	69.9	70.1
	数量関係	56.2	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	52.4	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	65.1	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	69.8	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

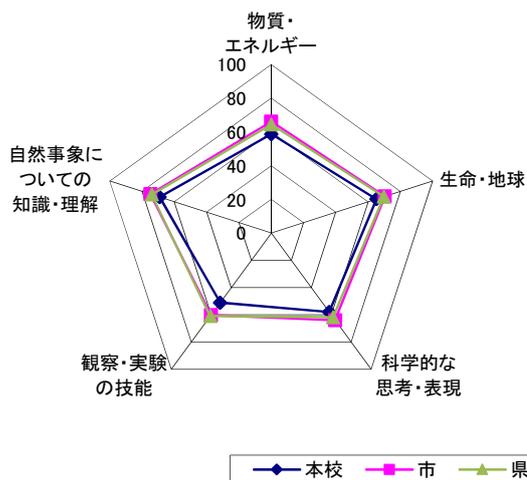
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均正答率に比べて低い。</p> <p>○くり下がりのある3位数-3位数の計算はよくできている。くり下がりのあるひき算の計算の仕方を丁寧に指導したり、繰り返し計算練習を行ったりした成果であると考えられる。</p> <p>●3つの数のかけ算において、計算の順序に合うように()を書き入れることに課題が見られる。</p> <p>●余りのある除法の計算の答えを確かめることについて、課題が見られる。</p> <p>●3位数×2位数=4位数の計算に課題が見られ、かけ算の筆算についての理解が不十分である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計算ドリルやプリントで繰り返し計算の練習を行ったり、ミニテストを実施したりして、計算力の向上を図る。 ・乗法や除法の筆算の仕方を指導する際に、途中の計算過程や位取りについて理解が図られるよう丁寧に指導する。 ・乗法の計算のきまり(交換・結合・分配)について繰り返し指導する。 ・除法の答えを求めた後、計算の答えを確かめることを習慣化させる。
量と測定	<p>平均正答率は、市の平均正答率に比べて低い。</p> <p>○木の幹の周りの長さを測るのに適した道具を選ぶことがよくできた。</p> <p>●ものの重さを考えながら、単位を選ぶことに課題が見られる。</p> <p>●ある時刻に間に合うように、出発時刻を求めることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にはかりなどの道具を使って測定するといった体験的・操作的な活動を充実させ、実感を伴った理解ができるようにする。 ・日常生活の中で、長さや時間、重さなどを意識させ、単位に関する感覚を磨くようにする。
図形	<p>平均正答率は、市の平均正答率に比べて低い。</p> <p>○折紙を2つに折った後、広げてできる形を選ぶことはよくできた。</p> <p>●正方形に内接する円の直径の長さを選ぶことや箱に入った同じ大きさのボールから半径を求めたりすることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的、操作的活動を通して図形の定義や性質を考え、自分の言葉で説明し合うなどの言語活動を取り入れて、図形の知識を定着させる。
数量関係	<p>平均正答率は、市の平均正答率に比べて低い。</p> <p>●等分除の問題について、わり算の式を立式し答えを求めることに課題が見られる。</p> <p>●棒グラフからわかる正しい内容を選ぶことに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文から読み取ったことを図や式、表、数直線に表して立式し、互いに説明し合う活動を多く取り入れる。 ・棒グラフや折れ線グラフの特徴や目盛りの読み方等を丁寧に指導する。また、他教科と関連付け、グラフを読み取ったり作成したりする活動を多く取り入れる。

宇都宮市立清原東小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	58.7	66.1	64.4
	生命・地球	65.1	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	58.0	64.1	61.9
	観察・実験の技能	51.2	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	69.1	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の正答率に比べて低い。</p> <p>○天秤が釣り合うことから、ものの重さを推測する設問では正答率が高く、観察や実験で体験したことが、経験を通して理解できている。</p> <p>●各設問の問題文が長く、文章の意味を的確にとらえて答えを導くことが必要となるが、題意を読み取れていない児童が多い。</p> <p>●電気の流れる通り道の名称や明かりがつくつなぎ方を推測することに課題が見られる。</p>	<p>・理科で使う基礎的な用語や実験器具の使い方が十分に理解されていないので、科学的な用語や実験用具の使い方について説明を加えながら段階的に授業に取り入れていく。</p> <p>・簡潔で論理的に説明する能力を身に付けさせるために、説明のパターンを示しながら、繰り返し指導していく。</p> <p>・絵や図から設問の意図を汲み取ったりする力に課題があるので、学習課題を解決するための実験や観察を行う際には、方法や結果を絵や図を用いて示すように指導する。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の正答率に比べて低い。</p> <p>○時間による影の変化のしかたや昆虫の体の色とすみかとの関係について推察することについては理解できている。</p> <p>●虫メガネや方位磁針、温度計などの実験器具の使い方について、理解が不十分である。</p> <p>●選択式に比べ、短答式、記述式の問題で県や市の平均正答率との差が大きくなっており、言葉で説明し表現する能力に課題が見られる。</p>	<p>・児童は、興味・関心が高まったとき多くのことを学び自分の知識の中に取り入れることができるので、興味・関心を高められる学習課題の設定をする。</p> <p>・虫メガネや方位磁針、温度計などの実験器具の使い方は、観察や実験で一人一人が体験できるので、使用する際に実験用具の使い方については説明を加えながら、確認する。</p> <p>・理由を説明するといった問題で誤答が多いことから、得た知識から根拠を明確にして自分の考えを書く活動を増やしていく。</p>

宇都宮市立清原東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人と学校のできごとについて話をしている」「家で約束やきまりを守っている」と回答した児童の割合は9割に近く、市や県の平均回答率を上回っている。

○「学校の宿題は、自分のためになっている」と回答した児童は9割以上おり、市や県の平均を上回っている。

○「算数が好き」「算数が分かる」と回答した児童の割合は8割を超えており、市や県の平均を上回っている。今後も、TTや少人数指導の学習形態を取り入れたり、体験活動や操作活動を取り入れたり等、児童の興味・関心が高まるような授業を進めていく。

○「自分には、よいところがある」と回答した児童は8割を超えており、市や県の平均を上回っている。家庭での会話の多さ、学校における友達や教員との良い関わりが、自己肯定感を育てていると考えられる。

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童の割合は、市や県の平均を上回っている。今後も、授業の中で話し合い活動を多く取り入れていく。

●「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「早寝、早起きを心がけている」と回答した児童の割合は、いずれも市や県の平均回答率を下回っている。道徳や学級活動の時間等で、規則正しい生活習慣は心身を健康にし、学習にも影響を及ぼすことに気付かせ、その大切さについて指導を続けていく。

●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得たい」の質問で肯定的回答をした児童の割合は、いずれも市や県の平均回答率より大きく下回っている。各教科や総合的な学習の時間等を通して、学習や身近な問題に関して、自ら解決していく方法を指導したり、解決した時の達成感を味わわせたりしていく。

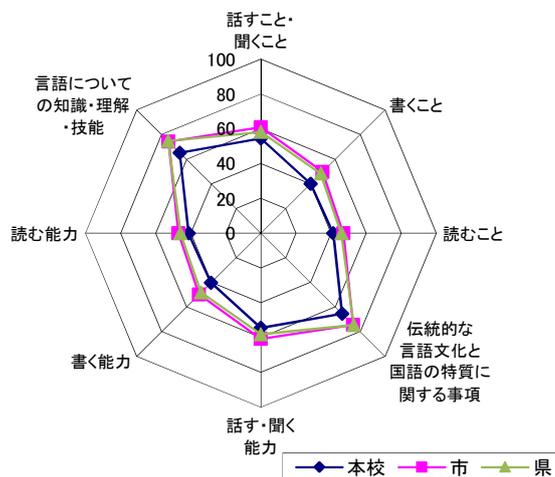
●「家で、学校の復習をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」と回答した児童は、何れも市や県の平均回答率を大きく下回っている。今後も、家庭学習の大切さについて指導していく中で、授業やテストの復習をすることが学習の定着に繋がることを気付かせていく。

●学習時間の平均は平日・休日共に市や県の平均を大きく下回っている。一方で、スマートフォンやゲームを使用する時間、テレビを見る時間の長さは、大きく上回っている。休日も含め、家庭での過ごし方について、今後も指導を続けていく。

宇都宮市立清原東小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	54.4	60.8	58.1
	書くこと	40.2	49.8	48.3
	読むこと	41.2	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.4	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	54.4	60.8	58.1
	書く能力	40.2	49.8	48.3
	読む能力	41.2	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	65.4	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

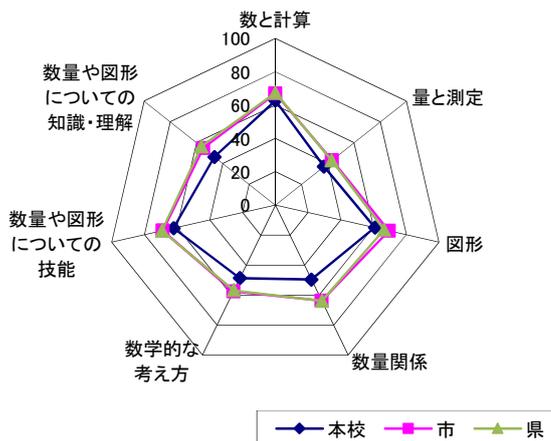
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の正答率に比べて低い。</p> <p>○他の領域と比べて県の平均との差が少ない。</p> <p>●話し合いにおいて意見の共通点を記述する設問では、市の正答率を10%近く下回っており意見の相違点に気付くこと、また記述で回答することに課題が見られる。</p>	<p>・国語の授業や学級活動の話し合い活動などにおいて、自分と相手の意見の共通点や違いに気付けながら聞き、それを書く活動を意図的に取り入れるようにする。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の正答率に比べて低い。</p> <p>○資料を基に説明するための言葉を選ぶことの本答率は、市の平均を上回っている。</p> <p>●掲示物の内容に合う資料を選ぶ設問とインタビューの結果を基に必要な内容を整理して書く設問は、どちらも市の平均を大きく下回っており、課題が見られる。</p>	<p>・国語や社会、総合的な学習の授業で、自分の考えの根拠となる資料を選んで使う活動を意図的に多く取り入れ、資料やデータの活用慣れさせる。</p> <p>・自分の考えを書くことに抵抗が見られるので、短時間で自分の考えをまとめて書く活動を多く取り入れ、書くことへの抵抗を減らしていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の正答率に比べて低い。</p> <p>○段落の要点を捉えて要約した文に合う言葉を選ぶことは、よくできている。</p> <p>●説明文、物語文双方において、初めて読む文の内容を短時間で理解することに、課題が見られる。</p>	<p>・短い説明文の要旨をまとめたり、物語文の抜粋を読んで内容を説明するなどの機会を多く設け、児童の文章への抵抗感を減らしていく。</p> <p>・文学作品の読み聞かせやブックトークをしたり、音読をさせたりして、文学作品に触れさせる機会を多くする。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、市の正答率に比べて低い。</p> <p>○漢字辞典の使い方については、よくできている。</p> <p>●漢字の書きについては、全般的に理解が不十分である。</p> <p>●漢字の構成についての理解が不十分である。</p> <p>●ローマ字の読みについては、無回答率が高く、理解していない児童が多いことがうかがえる。</p>	<p>・朝の学習や家庭学習で既習の漢字を含めて練習を継続的に行い定着を図る。</p> <p>・文章を書くときに、習った漢字をできるだけ使うよう指導していく。</p> <p>・ローマ字については、英語やパソコンを使った授業などいろいろな場面で使う機会を設けるようにする。</p>

宇都宮市立清原東小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.7	66.9	67.4
	量と測定	37.1	43.2	43.0
	図形	60.9	69.4	66.5
	数量関係	49.6	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	48.7	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	62.2	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	46.4	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

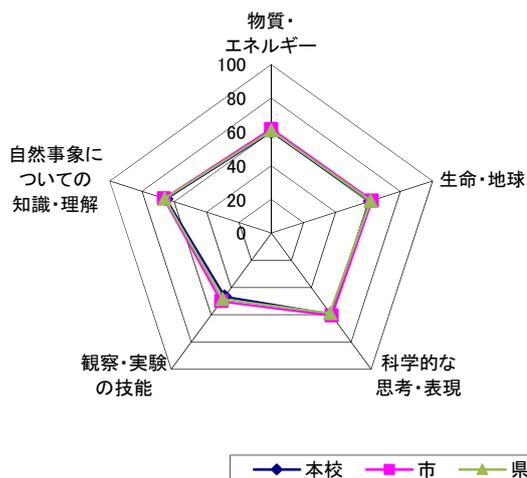
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均正答率に比べて低い。</p> <p>○商に空位や余りのある3位数÷2位数=2位数の計算は、市の正答率を上回り、よく理解できている。</p> <p>●帯分数→真分数(同分母分数・繰り下がり)に課題が見られる。</p> <p>●分数を数直線上に表したり、1.8は0.01を何個集めた数かを求めたりする問題に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計算ドリルやプリントで繰り返し計算の練習を行ったり、ミニテストを実施したりして、計算力の向上を図る。 ・帯分数を仮分数に直すやり方や同分母分数の計算のやり方を丁寧に指導し、繰り返し計算の練習を行う。 ・分数や小数の仕組みについての基本的な知識が身に付くように丁寧に指導し、分数や小数の数量感覚を養う。
量と測定	<p>平均正答率は、市の平均正答率に比べて低い。</p> <p>●はがきのおよその面積を選ぶ問題は、正答率が3割に届かず理解が不十分である。</p> <p>●図をもとに180°より大きい角度の求め方を説明する問題に課題が見られる。</p> <p>●式と図に合う複合図形の面積を求める方法を説明する問題は正答率が2割に届かず理解が不十分である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、およその数を求める場面を設定したり、概数を使って物事を判断する問題を取り入れたりすることで、概数で表すことの良さや目的を理解できるようにする。 ・図や式をもとに、自分の考えを話したり説明したりする活動を多く取り入れ、思考力、判断力、表現力を身に付けさせる。
図形	<p>平均正答率は、市の平均正答率に比べて低い。</p> <p>○平面上の位置を表す問題は、市の平均正答率を上回り、よく理解できている。</p> <p>●与えられた2辺の続きをかいて、平行四辺形を完成させることに課題が見られる。正答率が約4割程度であり、理解が不十分である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習を取り入れ、少人数での作図指導を丁寧にしたり、朝の学習や家庭学習で繰り返し問題に取り組ませたりする。 ・作図の学習では、図形のかき方だけでなく、図形の特徴を考えたり図形を比較して同じところや違うところを考えたりすることで、図形の性質をしっかりと理解できるようにする。
数量関係	<p>平均正答率は、市の平均正答率に比べて低い。</p> <p>●図や表から変わり方を考え、○や△を使って関係を式に表す問題に課題が見られる。</p> <p>●二次元表の欄にあてはまる数を求める問題に課題が見られる。</p> <p>●棒グラフと折れ線グラフが同時に表されているグラフから、正しく目盛りを読み取ったりグラフから分かる内容を正しく読み取ったりすることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文から読み取ったことを図や式、表、数直線等に表して説明し合う活動を取り入れる。 ・棒グラフや折れ線グラフの特徴や目盛りの読み方を丁寧に指導する。また、社会や理科などの他教科と関連付け、グラフを読み取ったり作成したりする活動を多く取り入れる。

宇都宮市立清原東小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.1	61.7	60.7
	生命・地球	61.3	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	59.6	60.6	58.9
	観察・実験の技能	46.7	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	65.2	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、県の平均正答率とほぼ同じであり、活用の設問では県の平均正答率を上回っていた。</p> <p>○ポットを押したときにお湯が出る理由をよく理解している。</p> <p>○水の温度変化と体積変化を関連付けて考えるという問題はよく理解できていた。</p> <p>●光電池の働きと光の強さの関係から結果を推測する問題に課題が見られる。</p>	<p>・実際に実験などで体験したことのある問いに関してはよく理解できているので体験する場面を多く設定する。</p> <p>・学習内容と日常生活を結び付け理科の学習を身近に感じられるような工夫をすることで、児童の関心を高め理科の知識の習得を図る。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、県の平均正答率とほぼ同じであった。</p> <p>○コップの外側に水滴がついた理由に関してはよく理解している。</p> <p>●事象が起こる理由を説明する問題の無回答率が全体的に高くなっている。</p> <p>●方位磁針の名称やその使い方に関して課題が見られる。</p>	<p>・自分の考えを説明する力が十分についていないので、予想、実験、考察のなかで自分の考えを明らかにし、説明をする場面を多く設定する。</p> <p>・水の状態変化については児童の日常生活と関わりが深いので、児童の経験を学習に生かせるような手立てを考える。</p> <p>・様々な器具の名称や正しい使い方を、実験や体験の活動を通して一人一人が身に付けられるようにする。</p>

宇都宮市立清原東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人と学校のできごとについて話をしている」「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「自分は家族の大切な一員だと思う」「家でのかままりやくそくを守っている」の質問について肯定的回答をした児童の割合が県や市の平均を上回っており、児童が家族の一員として温かな環境に身を置いていることがうかがえる。

○「家で、学校の宿題をしている」とすべての児童が回答しており、「学校の宿題は自分のためになっている」「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と回答した児童の割合も9割を大きく超えている。学校で出された課題に真摯に取り組み、家庭学習の大切さを理解している様子がうかがえる。

○「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童の割合は9割を超えており、県や市の平均を上回っている。学校全体でキャリア教育に力を入れてきた成果であると思われる。

○「人と話すことは楽しい」「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」と回答した児童の割合がどちらも9割を大きく超えており、児童が学校生活において周囲の人たちと上手にコミュニケーションをとり、楽しく生活していることがうかがえる。

●「難しい問題にであうとよりやる気がでる」と回答した児童の割合が5割と低い。達成可能な成功体験を多く積ませることにより、難しいことでも最初から諦めたりせず、最後までやり遂げようとする意欲を持たせるようにする。

●「自分はクラスの人の役に立っている」「自分の行動や発言に自信をもっている」と回答した児童の割合が、5割程度と低い。学校生活の様々な場面で児童それぞれのよさを取り上げ、自信をもたせるようにする。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答した児童の割合が5割程度と市の平均より低くなっている。書くことに抵抗がある児童が多いので、授業の中などで自分の考えを短時間で書く機会を多く設けるようにする。

●「学校の宿題をしている」のにもかかわらず、「家で学校の授業の復習をしている」と回答した児童の割合が5割弱とかなり低い。宿題が復習になっていることへの意識が薄いことがうかがわれるので、家庭学習の意味と役割について再度指導していきたい。

宇都宮市立清原東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるまとめ・振り返りの充実	授業の終末に、本時の課題に対するまとめを板書して確認し、一人一人が分かったことなどを振り返ってノートに書く時間を設けている。	児童質問紙の「振り返る活動」に関する質問項目について、「はい」と回答している割合は、5年生児童の割合が87%であり、昨年度4年生だった時と比べて23ポイント増加している。
基礎・基本を確実に身に付けさせる指導の工夫	・分かる授業の展開（効果的な発問・助言・指示・課題提示からまとめまでの板書の工夫、教材・教具の工夫等） ・朝の学習の充実	・算数の数と計算に関する問題の3位数×2位数の計算では、5年生児童の正答率が昨年度4年生だった時と比べて33ポイント増加している。 ・漢字やローマ字、小数や分数の計算、数直線上の目盛りの大きさを読み取るなどの基本的な知識や技能にかかわる問題の中で、市の平均よりも10ポイント以上下回るものがあった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	・7月と11月と2月に「家庭学習強化週間」を実施し、「家庭学習カード」に学習時間を記入したり、保護者の励ましや助言などを書いてもらったりして提出するよう指導する。 ・学年に応じて自主学習に取り組み、手本となるノートを紹介する。	児童質問紙の家庭学習に関する項目の中で、「家で学校の宿題をしている」に肯定的に回答した児童の割合は、5年生で100%、4年生で92%と高い割合を示しているが、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」は、4・5年生ともに70%未満である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、4・5年生ともに、記述式設問の無回答率が市の平均と比べて高い。また、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と感じている児童は4・5年生ともに55%を上回っている。	自分の考えをもち、説明する力を付けさせる指導の工夫	・自分の考えを書く場を多く設定し、「書く」ことの習慣化を図る。 ・根拠を明確にして自分の考えを表現できるように、手順を示すなどして書き方や説明の仕方を丁寧に指導する。 ・学習形態（ペア・グループ）を工夫し、互いの考えを伝え合う活動を多く取り入れる。